

富田教室の宗明先生の記事です

新しい大学入試の名前は「共通テスト」！ 学年によって対応のしかたを変えましょう

富田教室長より



大学入試センター試験が 2019 年度に終わり、2020 年度から「共通テスト」という新しい入試制度に変わります。

くわしくは下の表でまとめられていますが、イメージできるでしょうか？

■ 大学入試改革と次期学習指導要領実施スケジュール

年度・学年	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
新テスト	基礎診断 共通テスト フレテスト施行	共通テスト フレテスト施行		現センター廃止 共通テスト 先行実施				共通テスト 本格実施
次期学習 指導要領		小学移行措置(英語等)	小学 次期学習指導要領 全面実施		中学 次期学習指導要領 全面実施	高1 次期学習指導要領 全面実施		
中3	中3	高1	高2	高3			高2 全面実施	高3 全面実施
中2		中3	高1	高2	高3			
中1			中3	高1	高2	高3		
小6				中3	高1	高2	高3	
小5		小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3 ★
小4		小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2

基礎診断 3科目(国語総合・数学I・コミュ英語I) 学力調査テスト高校版の位置づけ
 基礎診断 次期学習指導要領対応(必修科目5科予定) AO入試・推薦入試への活用の可能性あり
 共通テスト ペーパー式で記述式(国数)とマーク式、現行センターと同じ1月実施
 共通テスト 本格導入(CBT-IRT)

「Educational Network Journal」vol.41(2017年9月)より

気をつけないといけないのは、今の中学3年生と今の小学5年生です。

今の中学3年生が、高校3年生になった時、「共通テスト」初年度の学年になります。

今の小学5年生が、高校3年生になった時、「共通テスト」本格実施の最初の年になります。

小5から中3の間は、移行期間です。

(共通テストの試行錯誤をしていく期間)

試行錯誤期間と聞くと、なんだか実験されちゃっているみたいで気分はあまり良くないですが、とりあえず前の学年でやっていることを踏襲するので、予想はまだしやすいほうです。

中3と小5は、ちがいます。前の学年までしていたテストとガラッと変わる最初の年ですから、この2学年は事前に新テストの対策がしにくく、塾の先生も学校の先生も、そして何より生徒さん自身も苦勞すると思います。

ついでに言うておくと、**今の高校1年生**はセンター試験を受ける最後の学年ですから、万が一受験に失敗すると、次の年は新テストで受けさせられます。生半可な努力では対応しきれないので、**今の高1は基本的に「絶対浪人しない」**ことを強く意識しておきましょう。

大学「共通テスト」の国語はこう変わる！ 今のうちから準備できることは？

今年の5月に、この新「共通テスト」の問題例が発表されました。

今回は国語を例にして、下に特徴をざっくりまとめます。

「Educational Network Journal」
vol.41(2017年9月)より

記述式問題(国語)の ポイント

- 問題数は3問程度。
- 自由度の高い問題は出題されない。
- 何を、どう書くのか、条件を読み取る力が必要。

センター試験はこれまでマークシートで答えを選ぶだけなので、たまたま正解もできましたが、新テストは記述式の問題が少しずつ増えてきます。

今の小5からは、5科目すべてで記述式がメインになるとの噂も・・・？

実際の問題例を見てみましょう。

モデル問題例1-2

【資料甲】
城見市「町並み保存地区」景観保護ガイドラインのあらまし

ガイドラインの基本的な考え方

城見市「町並み保存地区」一帯は、西暦の西暦にもなっている秋葉山山頂に築かれた白鳥城下を遡る、旧街道の伝統的な造り遣いと町並みからなります。その町並みと地形とが呼応し、そこに集まる人々によって文化と美に育まれてきたところにその特徴があります。

本道は、「町並み保存地区」に限らず、城見市が育んできた歴史、文化の特質を尊重し、築かれた自然と景観に対して十分配慮するとともに、この自然と景観を維持、保全、実現しなげねばなりません。そのためには、生活、企業、行政など全ての人が城見市の景観に対するさらなる意識の向上を図り、重要な制度であることを深く認識し、この美しい景観を将来の世代に引き継いで景観を築いているのです。



景観保護の目標

ア 市役所周辺から商店街地区にかけてのにぎわいを連続させるとともに、都市の顔として景観のある空間づくりを導きます。

イ 秋葉山の眺望や秋葉山などの景観資源を活用し、親しみがあり愛着と魅力を感じる町並みを形成していきます。

ウ 広域からの外見客のある、観光や伝統行事などの拠点にあふわい景観づくりを導きます。



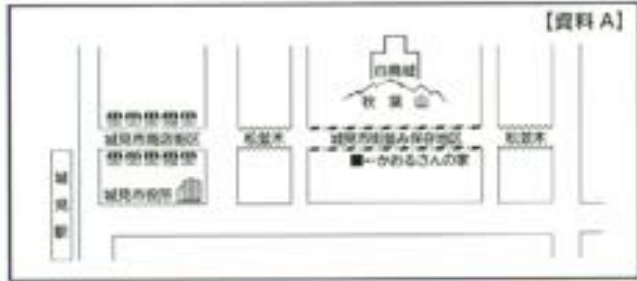
景観保護の方針

- ・ 町並み及び「町並み保存地区」の植栽を保全し、街道みや秋葉山の景観との調和を図ります。
- ・ 植栽物の種類、広さや中層の色調については、原色などの目安つものを選び、伝統的建築物との調和を図ります。
- ・ 購入住宅を含めて、建築物の色調を導くものとし、壁面の位置や軒先をそろえます。
- ・ 一般及び観光客用の駐車場や仮設のごみ置、ごみ収集時のごみ置が景観を損ねないように工夫します。
- ・ 「町並み保存地区」は自動車等の出入りを制限し、ゆとりある歩行空間を確保します。
- ・ 緑地等との協議を通して、景観を保護するために必要な手配があれば、その取上を検討していきます。

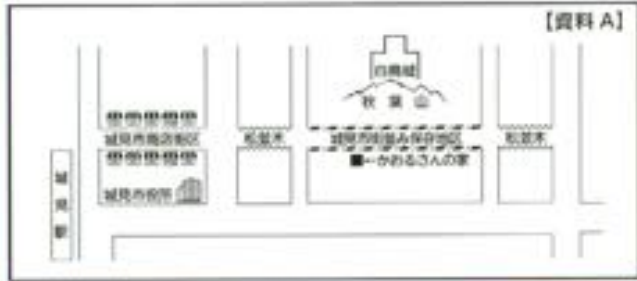
モデル問題例1-1

【資料乙】

かおるさんの家は、「資料A」の「城見市町並み保存地区」に面している。伝統的な景観を築いた建物である。城見市が作成した景観保護に関する「資料甲」(「城見市「町並み保存地区」景観保護ガイドラインのあらまし」と)、かおるさんの父と姉の会話を読み、後の問い(問題1-4)に答えよ。



【資料A】



大事なポイントは「感想文を書いてはダメ」ということでしょうか。

「ガイドライン」と「地図」を見て、設問の意図どおりの答えを書かなければいけない。資料などを読んで「この答えにしか行き着けない」ようになっています。

自由度の高い問題ではない、とは、こういう意味です。独特の発想が得点になるというわけではありません。また、なんでもいいから言葉を埋めればいいものでもなかったりして、いわゆる論理力が求められています。

あと、一つ気になったのが、言葉の難しさですね。

高校3年生の時点で「ガイドライン」という言葉の意味を知るような経験ができていないか、「町並み保存地区」という存在を知っているかどうかで、この問題への受け止めやすさは、全然ちがってくると思います。

モデル問題例2-1

問 転勤の多い会社に勤めているサユリさんは、通勤用に自動車を所有しており、自宅近くに駐車場を借りている。以下は、その駐車場の管理会社である原パークとサユリさんが締結した契約書の一部である。これを読んで、あとの問い(問1～3)に答えよ。

駐車場使用契約書

貸主 原パーク(以下、「甲」という。)と 借主 ○○サユリ(以下、「乙」という。)は、次のとおり駐車場の使用契約を締結する。

第1条 合意内容

甲は、乙に対し、甲が所有する下記駐車場を自動車1台の保管場所として使用する目的で賃貸する。

(駐車場の表示)

住所	東京都新川市新川朝日町2丁目3番地
名称	原パーキング第1
駐車位置番号	11番

第2条 期間

乙の使用する期間は、平成28年4月1日から平成29年3月31日の一年間とする。契約期間満了までに甲、乙いずれか一方から何等の申し入れがない時は、さらに一年間の契約が自動的に更新されるものとする。

第3条 駐車料金

乙は、以下のとおり駐車料金を支払うものとする。

敷金(●)	金20,000円
月額駐車料金	金21,600円(税込)
支払期日	毎月末日までに翌月分を支払うものとする
支払方法	甲指定の銀行口座への振込

第4条 駐車料金の改定

甲は、この契約期間中、物価の変動、経費の増加、近隣駐車料金その他の経済情勢の変動により、月額駐車料金が不相当と認められるときは、これを改定できるものとする。

これも別の問題例ですが、契約書が場面設定に使われています。

なかなか学生時代に、契約書に触れることはありませんよね？

甲・乙という語彙も含めて、今の子ども達の生活力を意地悪く試すような問題作りになっています。

契約というものがどういう考え方なのかとか、支払期日が持つ意味とか、大人ならよくわかると思いますが、国としては、こういった経験値を学生のうちに積んでおいてほしいという意図

を感じます。今の子ども達の実情にあっているかどうかは別として。

高校入試は関係ない？

「わたしは大学進学しないし、関係ないかなあ」

そう思う方がいらっしゃるかもしれません。

半分そうと言えますが、残り半分はそうではないです。


大学入試が変わるということは、高校のふだんの授業も変わらないといけません。試験だけ難しくしては、受験者みんな倒れてしまいますからね。

高校のふだんの授業が変わるということは、高校入試で求める力や生徒像も変わってきます。

つまり大学入試が変わると、進路が就職でも進学でも、そこに送り出す高校・中学・小学校の授業内容まで変わってくるわけです。

実際に、これは今春の高校入試の国語の問題です。

【進行ノートの一部】

スライド ※①から③の順に説明する。	説明事項等
<p>スライド①</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>目的</p> <p>地域の方々と一緒に 自分たちが住む町を きれいにする！</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始めの言葉 ・ 地域の方々と企画作業を行うこと。 ・ 活動中は、地域の方々と積極的にコミュニケーションをとること。 <p>(5分)</p>
<p>スライド②</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地域の様子</p> <p>私たちの住む町について 考えてみましょう。</p>  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミが捨てられている場所は？ → 駅前、公園等 ・ どのようなゴミが捨てられている？ → ビン、カン等 <p>(5分)</p>
<p>スライド③</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>活動について</p> <p>(1)手順 回収⇨分別⇨道具の整理 (2)分冊 1冊 駅前 2冊 公園 (3)分別の仕方 燃えるゴミ、燃えないゴミ、 ペットボトル、ビン、カン</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分別の際には、ゴミの種類を確認すること。 ・ 道具は汚れを落とすとして返却すること。 <p>(5分)</p> <p>・ 終わりの言葉</p>

条件1 文章は、二段落構成とすること。
 条件2 第一段落には、説明や発表をする際に、映像資料(動画や写真など)を活用することのよさについて書くこと。
 条件3 第二段落には、AとBのどちらのタイミミングで動画を流すか、あなたの考えを示し、「進行ノートの一部」に書かれている内容と結び付けて、そのタイミミングで流す理由を具体的に書くこと。

〈動画を流すタイミミング〉
 A スライド①の説明のとき B スライド③の説明のとき

吉田さんは、スライドを用いてプレゼンテーションを行う中で、昨年度の「クリーン活動」の様子をまとめた三分間の動画を、左の(動画を流すタイミミング)のAかBで流したいと思っている。あなたなら、どちらのタイミミングで動画を流すか、条件1から条件4に従い、作文せよ。

大学入試よりはもちろん簡単になっていますが、それでも、スライドや表・図を読んで、意図通りの答えを探して文章で説明できないといけません。

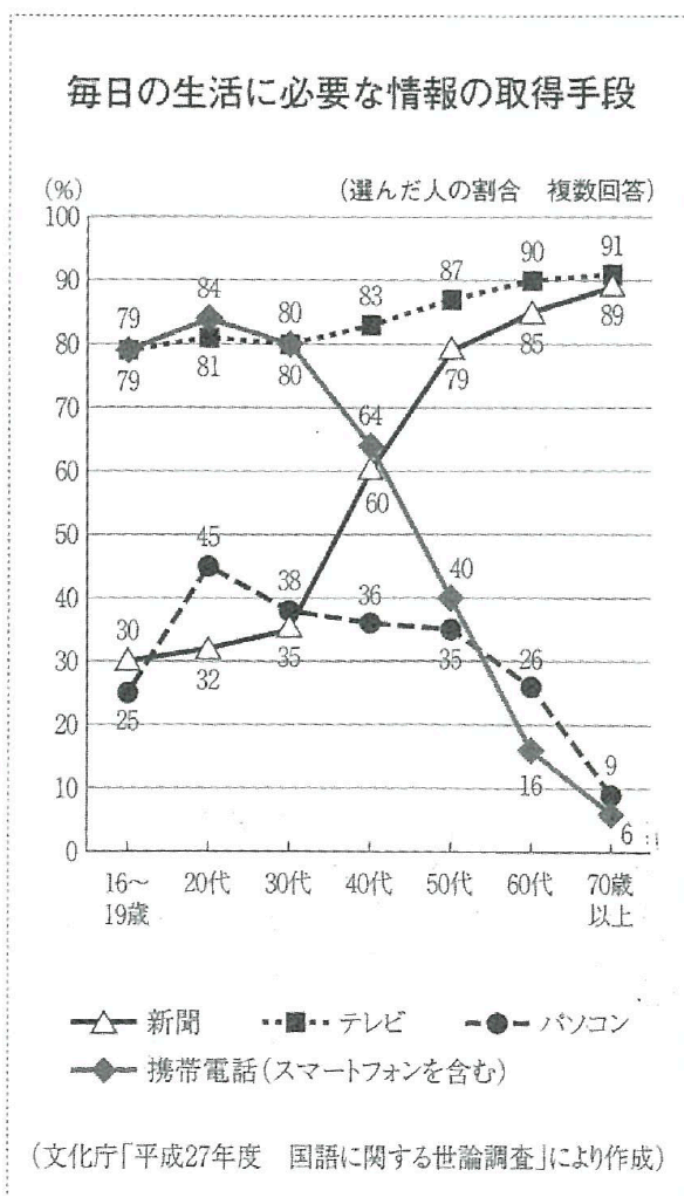
もはや、「あなたの考えを自由に述べよ」の時代は終わったのです。

皆様にイメージして欲しいのですが、お子様が上の問題文をいきなり読んで、すぐに論理的に説明が書けると思えるでしょうか？

おそらく、上の文を自然に読めるようになるには、ふだんからこういう文章にどれだけ触れているかという経験値がモノを言うと思います。

ふだんからこういう問題文をたくさん読んでおくのか、それとも、ふだんから問題ではなく、こういう本を読んでおくのか。

次のグラフは、十六歳以上の日本人を対象として、「毎日の生活に必要な情報を何かから得ているか」を年代別に調査した結果の一部を表している。このグラフを見て気づいたことと、そのことについてのあなたの考えや意見を、あとの条件に従って書きなさい。



条件

- 1 二段落構成とし、前段ではグラフを見て気づいたことを書き、後段ではそのことについてあなたの考えや意見を書くこと。
- 2 全体を百五十字以上、二百字以内でまとめること。

これも別の県の高校入試問題です。

社会の地理のグラフ問題にもこういうものがありますが、国語でもこのような「読み取って調べる系」の問題が増えてきています。

理由はすべて、新しい大学入試の時代が来ているからです。丸暗記でもなく、言いつばなし感想文でもなく、こういうものを自然と読める人がほしいという、新しい学力でこれからの中学生を判断したいのだと思います。

経験値の差が激しい時代



小学1年生で「たし算ができない」という子がいたので観察してみると、計算以前に「お金が数えられない」ということがあった。50円玉、100円玉といった金種の区別はついても、それが複数枚になったときの金額がわからない。100円玉1枚で40円のものが買えるかどうかもわからないというのだ。親は買い物の際にクレジットカードや電子マネーで支払い、子どもも自分でお金を握りしめて買い物した経験がない。電車に乗る際も運賃を確認することなく、切符を買うこともない。現金を見ないため、そもそもお金に興味がないのだという。お金

「塾と教育」2017年10月号より

上は極端な例ですが、実際におこりうる話です。

ご家庭によっては「あたりまえ」と思う経験が、別のご家庭では「あたりまえ」ではなかったりするのが今の世の中だと思います。

昔に比べて、仕事も趣味も余暇も生活様式も、本当に多種多様になったから、みんな同じ道を歩まなくなりました。だから、人によって経験しているものがかなり違う場合があります。

また、経験不足は語彙不足にもつながる。切符を買うことがなくなったせい「切符」という単語を知らない子ども多い。「リビング」は分かって「居間」は分からない。「キッチン」と「台所」などもそう。

国語の教科書に出てくる文章は、へたをしたら昭和の戦前の話だったりもするので、使っている言葉や登場するものが、お子様には想像もできなかつたりします。

こういう、日常で出会うことがないものも、事前に別の本で知っていればこの事態は防げるのですが・・・。

大人はどう教えていったらいいのか？

ヒントとなる話が先ほどの「塾と教育」に載っていました。

教育のプロ3名による対談の中で出た悩みです。

東京学芸大学・西村圭二 教授



明星学苑教育支援室長兼明星大学客員教授
細水保宏（元筑波大学附属小学校副校長）



乙会東大進学教室・石田浩二講師（元開成中学校・高等学校教師）



石田氏 予備校や塾は知識を詰め込むというイメージを持たれがちですが、詰め込み学習では難関大学に合格できないばかりか、伸びるはずの子どもをつぶしてしまうだけです。大切なのは答えの求め方を覚えるのではなく、自ら手を動かして様々な可能性を探っていく姿勢ではないでしょうか。

細水氏 実際、小学6年生は中学に向けて自立させなければならぬ時期ですが、手をかけ過ぎてしまうケースが多く、中学の先生が指導しにくくなるという現状もあります。

西村氏 ある県内有数の進学高校で、夏休み明けから授業中の生徒の態度に変化があると聞きました。考えることをやめて先生の解説を待つようになってしまふ、とのことでした。

石田氏 小中高校共通の問題意識として、「教え過ぎ」が浮かび上がってきたね。

教えすぎに注意、ということを行っています。

教えすぎると、考えることを放棄して、待つだけの人に育ってしまう。

でも、これからの新しい時代は、自分で動いて、様々な可能性を調べていく人が求められているから、なるべく若い時に、自分の頭で考える経験を積ませた方がよいという話です。

て合理的だからです。今後求められる力は、自分で考えて答えを出していくことです。子どもたちは平気で「この漢字は習っていないから書けない」とか「習っていないからこの計算はできない」と言います。つまり、教えてもらっていないことは、できないのは当たり前というわけです。しかし、これから求められる力は、今まで自分たちが教わっていないことでも、問題にぶつかったとき、どうすれば解決できるか、模索できる力なのです。

教室長が、生徒さんから勉強の質問を受けるときは、調べればすぐわかることなら、あえて答えを言わず、調べるように言います。

ちょっと冷たい人にうつるかもしれません。

教えれば一瞬なわけで、しかも、知っているわけですから。

でも、あえて苦労してもらおう。一手間動いてもらおう。

それによって、**より深く記憶に残ってもらえるのなら**、という気持ちが私をそうさせます。

だから、**調べかた**や、**調べた後のまとめかた**をよく伝えます。

調べた単語そのものが大事なのではなく（テストでは大事ですが）、どうやって調べたかという方法が、一生ものになるのだと思ってやっています。

ぜひご家庭でもいろいろな経験をされる際は、**事前に「しかた」や「ルール・きまりごと」を教えること**、これが大切なのではないかとおすすめします。

（スマホを買ってあげるときも一緒ですね。約束の後出しは嫌がられます）

新登場！「おさらい先生」

先月号で、「しつこい反復練習は、人間より AI (人工知能) のほうが上手!」という話をしました。

人間って、100回同じこと言うとイライラしてしまったり、間違った問題を何ヶ月も正確に管理し続けることが苦手なんですよね。

そこで今回導入したのが、その名も「おさらい先生」。



おさらい先生

「みんなできてるのに、自分だけできない…」

昔ならったことだけど、自信があんまりないまま先に進んでしまって、いつまでたってもあやふやなままにしている内容はありませんか？

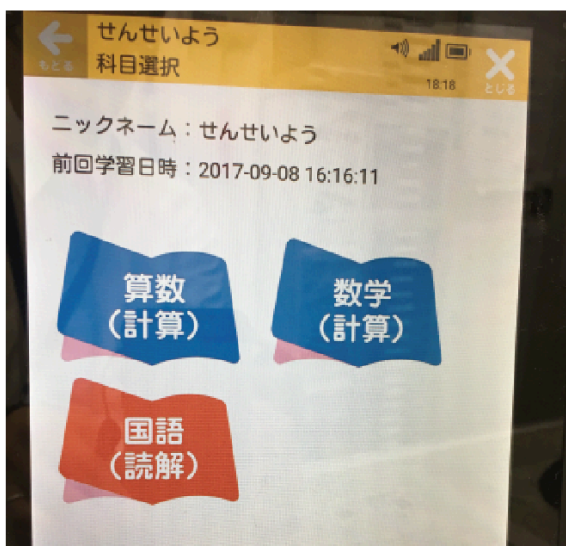


■ 特訓できる科目は3つ！

1. 小学校の算数 (計算分野)
2. 中学校の数学 (計算分野)
3. 小学校の国語 (読解問題+国語のルール)

どんな難しい文章問題を解けても、答えを出す途中で計算を間違えてしまったら × になります。また、計算ができないと理科の成績にも影響が出ます。

国語の文章を正しく読めないと、5科目全体の文章問題や、そもそも教科書の言っていることがわからなくなります。



簡単に言うと、最初はみんな小学1年生のたし算からスタートして、ミスなしで解ければ、次の単元へレベルアップできるようになっています。

導入から1ヶ月たって、一部の生徒さんに実験的に試してもらっています。

中学生にしてもらっています。

「小1のたし算？ バカにするなよ先生！」と思っているかもしれませんが、とある中学1年生男子の場合、こんな感じです。



1 問ごとに、解いたスピード、解いた結果を正確に記録。

2 問ミスすると、似たタイプの問題の量をいきなり急増させるのが「おさらい先生」の特徴。ミスが治るまで、クリアさせてくれません。

この生徒さんの場合、単元5の「足し算の筆算」まではまあまあ順調に進みましたが（これもノーミスではないことに注意）、単元6「引き算の筆算」で間違いを連発。解き方が分かっていないわけではないので、ミスでしょう。ここをひたすら反復させられています。機械に。

そして、9/8 にいきづまった「引き算の筆算」を、なんとか 9/20 に突破口を見つけたかな？というところで、終わっています。

どうでしょうか。中学生で小学校低学年の引き算で行きづまるというのも衝撃ですが（ちなみに、この生徒さんの数学は平均点より上です！）

人間なら、途中でこっちが根負けして、まあいいか、と次の単元へ進ませてしまいますよね。特に、解き方が分かっているのなら。

その甘さが、大きな間違いだと指摘するのが「おさらい先生」です。

ミスは、完治させないと、いつまでたっても得点につながらないのだと、教えてくれます。そして実際に、根気強く何問も反復していると、いつかはレベルアップして次に行けるのです。

■ 特訓する順番と特訓時間

全員、まず算数と国語から受講！算数を全クリアした子は、数学にチャレンジできます！



上のような感じで、自習の時間に「おさらい先生」を組み込んだらどうかな？

と考えています。算数だけでなく、国語の読解も小学 1 年レベル（文章がほとんどひらがな！）から、順番にうでだめしできます。

「おさらい先生」を受けてほしいのは、学校のテストで平均点がとれない生徒さんと、うっかりミスが治らない生徒さんです。

今は実験導入中なので、教室の方で、必要と思う生徒さんを勝手ながらチョイスして、受けてもらっています（実験導入なのでもちろん無料でやっています）

今後、効果が見えてくれば、本格的な設備導入をおこなう見通しです。

発達障害として診断名はつかない「グレーゾーン」な子どもが増加傾向に

---このところ「発達障害」が話題になっているせいか、ちょっと気になる点があるとすぐ「アスペルガー症候群」や「ADHD」などに結びつける傾向がある。だが、特に診断名のつかない「グレーゾーン」という領域があり、「支援が必要な子供」とは見なされないまでも、対人面のトラブルや集団へのなじみにくさなど気になる様子が見られるケースがあるのをご存じだろうか？ 実際、そのゾーンにあたる子供こそ数が多く、近年は増加傾向。そうした子の多くが「感覚」の使い方につまずきがあり、適応力（その場、その場の状況に合わせる力）に未発達やゆがみが生じてしまっているという状況なのだという。

1. コミュニケーションスキル…意図理解力、自己表現力
2. 行動スキル…注意力、問題解決能力など
3. アカデミックスキル…読み書き計算、思考能力
4. モータースキル…全身運動、手先の巧緻動作

■適応力の4つの柱のつまずきと発達障害および感覚統合のつまずきとの関係

※つまずきの量なり方は、個人によってさまざまです。

アスペルガー症候群

相手の意図や気持ちを感じることが苦手で、自分の思いを相手に伝えることも難しい。

（得意にあること）

聴覚ほか感覚的過反応、ボディイメージの未発達 など

コミュニケーション
スキル
（意図理解力や
自己表現力）
のつまずき

注意欠如多動性障害 (ADHD)

注意の集中、持続性に欠けていて、衝動的に行動したり、じっくり考えたりすることが苦手。

（得意にあること）

聴覚ほか感覚的過反応、平衡感覚系の低下、ボディイメージの未発達 など

行動スキル
（注意力や
問題解決能力）
のつまずき

アカデミック
スキル
（読み書き計算や
思考能力）
のつまずき

モーター
スキル
（全身運動や
手先の巧緻性）
のつまずき

学習障害 (LD)

読み書き、計算、聞く、話すなど、基礎学力を支える一部、もしくはいくつかの柱につまずきがある。

（得意にあること）

平衡感覚系の低下、ボディイメージの未発達、不協和 など

発達性協調運動障害

手足や体など、全身を手際よく動かすのが苦手。手先が不器用。

（得意にあること）

ボディイメージの未発達、平衡感覚系の低下 など

---適応力の育ちというのは、もともと「理性・思考力・意欲」を司る脳の前頭葉に由来する一面だが、そうした脳の機能を十分に活性化するのに必要なのが「物質的栄養」と「適切な感覚情報」。実は最近の子供は木登りや砂遊び、ボール遊びなどの外遊びをしなくなったことで感覚刺激が乏しくなり、脳の機能が十分に活性化されていない状況になっているようなのだ。その結果、脳の中に流れ込んでくるさまざまな感覚情報を整理できなくなってしまい、適応力につまずきが出てしまう。

問題は、どうすればその感覚統合のつまずきを改善できるのか。そこで参考にしたいのが『保育者が知っておきたい 発達が気になる子の感覚統合』（木村順：著、小黒早苗：協力/学研プラス）。保育者とはズバリ、保育園や幼稚園の先生のこと、いってみれば専門家向けの指南書なのだが、その実践力は子供に育てにくさを感じるママの強い味方になるだろう。

本書によれば、感覚統合には「触覚」「平衡感覚」「固有覚」「ボディ・イメージ」の観点があり、たとえば絵を描いたりする時、すぐ机に突っ伏してしまう子は、「やる気がない」のではなく、平衡感覚のうちの脊髄系がうまく働かず身体の軸を維持しづらくなっているかもしれない、とのこと。こうした知識を得ると、子供の育てにくさの捉え方に新しい視点が生まれてこないだろうか。

なお本書は「感覚統合の基本を知る」→「ありがちなケースごとに行動の原因を考える」（例：着替えが上手く出来ない→ボディ・イメージの未発達&平衡感覚の低反応）→「現職保育士さんが教える感覚遊びをやってみよう」の3ステップでこうした感覚統合への理解を促してくれる。基礎から応用までわかりやすく構成されているので、順をおって読み進めていけばかなりのヒントになるはずだ。

ちなみにステップ3の感覚遊びには、道具を使うものもあるが、手をつないで大人の身体をよじのぼってでんぐり返しをしたり、膝にのせてドライブごっこをしたりと、親子の触れ合い遊びも多数。わらべうたで手遊びなど、昔からの遊びに感覚を育む知恵が生きていたことを知るのも、新鮮な驚きだ。

四日市市文化協会の雑誌に文章を書きました



四日市市文化協会が年に2回発行している「パッション」という雑誌に、教室長が書いた記事が掲載されているので宣伝します（笑）

統括（兄）がパッションの編集員をしているので、平たく言えばコネですね。

でも、四日市の石について一番くわしいのはおそらく私、という自負をもって書かせていただきました。

「人生で大切なことは00から教わった」という言い方があります。

私の場合はそれが石でした。誰もやらない世界だから、すぐにオンリーワンに立てます。

生徒さんも、何でもいいので1つの分野で長ずれば、それが一生の武器になると、こういう活動を通して語りたいです。

欲しい方がいらしたら、教室長が3冊くらい持っています。あと文化会館などに残部があって、無料情報誌なので自由に持って行ってOKだそうです。

人生道中読売

路傍の自然石考 前

— 東海道の夫船石・妻夫石・姥石 — 吉川 宗明

夫船石（へまふねいし）

天保四年（一八三三年）に刊行された伊勢国の地誌『伊勢五路道』に「夫船石」として記述されている。この石に関する最古の記録は、元禄三年（一六九〇年）に刊行された『東海道分間図』で、地図中に「道中にめうと石として両方に有」と注記されている。ここでは「めうと石」と記述されており、これは「姥石」とは異なる。

なお、これより後に文化三年（一八〇六年）に完成した『五海道其外分間見取図』では、志氏神社（四日市市大宮町）の西側（香地六）の「の島居は東海道に面してあり、そこに二体の石がある。石が隔かれ、道の東側を「妻夫石」とし、道の西側を「夫船石」として記述している。

志氏神社は朝明郡三重郡の境にあり、二個の石を置いたことで境界を示したのだという。そして



写真のとおり由緒を伝える。この石に関する最古の記録は、元禄三年（一六九〇年）に刊行された『東海道分間図』で、地図中に「道中にめうと石として両方に有」と注記されている。ここでは「めうと石」と記述されており、これは「姥石」とは異なる。

なお、これより後に文化三年（一八〇六年）に完成した『五海道其外分間見取図』では、志氏神社（四日市市大宮町）の西側（香地六）の「の島居は東海道に面してあり、そこに二体の石がある。石が隔かれ、道の東側を「妻夫石」とし、道の西側を「夫船石」として記述している。

志氏神社は朝明郡三重郡の境にあり、二個の石を置いたことで境界を示したのだという。そして

天保四年（一八三三年）に刊行された『伊勢五路道』に「夫船石」として記述されている。この石に関する最古の記録は、元禄三年（一六九〇年）に刊行された『東海道分間図』で、地図中に「道中にめうと石として両方に有」と注記されている。ここでは「めうと石」と記述されており、これは「姥石」とは異なる。

なお、これより後に文化三年（一八〇六年）に完成した『五海道其外分間見取図』では、志氏神社（四日市市大宮町）の西側（香地六）の「の島居は東海道に面してあり、そこに二体の石がある。石が隔かれ、道の東側を「妻夫石」とし、道の西側を「夫船石」として記述している。

志氏神社は朝明郡三重郡の境にあり、二個の石を置いたことで境界を示したのだという。そして



これを夫船石と呼び、婦女が船艀を求めるときはこの石に祈願すれば必ず船が来た旨が告げられている。さらに、「志氏神社縁記」という文獻には「島居有奇石、南北異置根固而不知其源、自古稱之日夫船石」と、また別の情報が登場する。「志氏神社縁記」は、作者も制作年代も不詳であり、明治時代よりはるかに古く、江戸時代さらには室町時代不明である。ここでは島居の間に奇石があり、その石は深き知れず、古くより夫船石と呼ばれていると記述されている。

（続く）